

統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日： 平成 19 年 0 8 月 1 7 日

氏名：EDP member (宮入、中田、武村、手塚、田村、渡辺[代理]、福原、)

会議名	第 5 回 EDP Meeting
期間 (移動を含む)	平成 19 年 0 7 月 0 9 日 ~ 1 1 日
用務地 (国・都市)	日本・東京
目的	<p>主要議題</p> <ol style="list-style-type: none">1 . Technology Roadmap のレビュー (主に Science Goal との整合性、コスト、リスク、及び達成可能性について) 及び優先順位付け2 . Technology Development Proposal のレビュー、クラス分け (ランキング)、及び提案者への技術コメント
<p><u>会議内容及び報告事項</u></p> <p>第 5 回 EDP 会議は東京の Japex オフィス会議室で開催された。</p> <p>前回ニューヨークで見直された Technology Roadmap の (ライブドキュメントなので) 現時点でのドキュメントとしての完成とその優先順位付け、及び 4 つの Technology Development Proposal のレビューがおこなわれた。</p> <p><u>Technology Roadmap</u></p> <p>前回同様、以下に示す 3 つのカテゴリー別にグループ分けをして、それぞれのグループ内で Science Goal との整合性、コストの妥当性、リスクの確認、及び技術的・時間的・コスト的に達成可能な技術開発なのか、前回の 82 項目すべてについて見直された。カテゴリー別の優先順位を (投票者の知識度で重み付けした) ランク付け形式で各メンバーが投票し、トップ 10 (A からは 1 1) が選ばれた。ここで、カテゴリー間の整合性の調整は行っていない。Roadmap ドキュメントとランキングは新バージョンとして公表される予定。</p> <p>Technology Roadmap カテゴリー：</p> <p>A: Borehole infrastructure B: Drilling vessel/infrastructure C: Sampling, Logging, and Coring</p> <p>この他、温度予測の高精度化と坑壁安定性の向上が、Science Goal 達成に重要であるにもかかわらず、Technology Roadmap の中に記載がないとの指摘があり、検討の結果、「Accurate estimates of downhole temperatures」がカテゴリー A の項目の一つとして入り、「better hole stability」の記載がカテゴリー B の項目の一つである Protocol for Proper Mud Design の Requirements の中に盛り込まれた。</p> <p><u>Technology Development Proposal</u></p> <p>IODP-MI が受けとった以下に示す 4 つの技術開発提案書についてレビューが行われた。これらの技術提案は MI がすでに技術タスクフォース (メンバーはすべて US から) として検討し、提案者に再検討項目・質問等を投げかけていて、あるものはその回答をアップデートした提案書となっていた。EDP はこれらの提案書に「Watchdog」を指名し、各提案について EDP としての検討を行い、最終的に EDP の総意として MI にコメント及びクラス (5 段階評価によるランキング) を提出した。</p> <p>提案技術の妥当性の裏づけについてはかなり突っ込んだ議論がされ、それらはクラス分けに大きく影響を与えた。クラス分けの評価基準を書き示す</p> <p>クラス分け評価基準</p> <p>5 stars: Extraordinary proposal. (ED impacts multiple aspects of the ISP and/or Tech Roadmap. Exceptional cost/benefit ratio. Very high probability of success.)</p>	

- 4 stars: Very good
(Impacts the ISP and/or Tech Roadmap., Good cost/benefit. High probability of success.)
- 3 stars: Good
(Impacts the ISP and/or Tech Roadmap. Acceptable cost/benefit. Acceptable probability of success.)
- 2 stars: Could be strengthened
(Can impact ISP but contains deficiencies in organization, and/or Poor cost/benefit, and/or Poor probability of success.)
- 1 star: Not Acceptable
(If Not impacts the ISP or contains deficiencies in organization, and/or Poor cost/benefit, and/or Poor probability of success.)

技術開発提案書：

1. Wellhead Interconnection System (WHIC)
Watchdogs: Sears(lead), Nakata, Person, Ye
2. Sediment Cork (SCork)
Watchdogs: Takemura(lead), Von Herzen, Holloway, Tamura
3. Decoupled Penetrometer Delivery System
Watchdogs: Thorogood(lead), Alberty, Ask, Ussler
4. SCIMPI
Watchdogs: Fukuhara(lead), Tezuka, Flemings

その他

- 前回の EDP Meeting #4 Minutes が承認された。
- 今回の EDP メンバーの出席者は代理も含め、日本：7名、米国：5名、欧州：3名、中国：1名。
- SPC レポートのセッションでは、予算が厳しく、今後重要な変更（non-IODP のオペレーションやスケジュール延期を含む）がある可能性が示された。また SASEC ワーキンググループが検討したコスト削減策シナリの一つとして、ED 資金の減少（若しくは無くなる）の可能性が示唆され、これに関して、EDP のメンバー縮小が提案されたという報告があった。具体的には日米からは代表を7名から5名に、その他は今まで通り。STP と EDP の統合、年間2回のパネル会議も少なくするという議論もあるらしい。
- SSEP Liaison の重要性が認識・強調され、EDP メンバーから代表者が会議に参加し EDP にフィードバックする。
- IODP-MI の提案する Coring Study を EDP がサポートする。
- 宮入氏が vice-chair として正式に紹介された。
- 手塚氏は今回で任期満了。次回で US メンバー総てが6回目。議長の Fleming は US 側委員に対し今会議後にボランティアで2名ローテートオフしてくれるよう呼びかけていた。日米のメンバー数削減は決定事項と捉え、日本側としてどのような専門的知識を持った5名を残すべきか検討が必要。
- 次回 # 6 のミーティングは仏国のパリ又はニースで2008年1月9-11日の予定。
- 次々回 # 7 は米国のワシントン D.C. 又は Monterey で2008年7月14-16日として提案された。

備考	
----	--

事務局又はJ-DESCへのご要望・コメント等